

# 県外派遣審判員報告書

作成日 2018年 3月 24日

大会名	第48回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会	会場	豊見城市民体育館 他
期間	3月16日(金)～3月18日(日)	報告者	川井 剛(中体連)

## スケジュール

期日	内容		場所
3月17日(土)	9:00～	大会1日目(男子Aパート1回戦)	豊見城市民体育館
3月18日(日)	9:00～	大会2日目(女子Aパート準決勝)	奥武山武道館
実技	割り当て	男子1回戦【豊見城 vs 日田】	U2 相手 和田(福岡)A級/坂元(鹿児島)B級

### ○ゲーム前(プレカンファレンス)

- ・3POメカの基本的な部分の確認。特に、トレイルの際のボールレベルに合わせたトレイルレベルの位置取りの確認。
- ・①ガイドライン/②得点に関する事/③クロック管理、ファウルの数等、②③についてはノームスでという確認。
- ・序盤でしっかりと基準を示すということの確認。

### ○ゲームの実際

ゲーム前に確認があったように、今まで以上にトレイルの位置取りを意識して取り組んだ。特に、ストロングサイドからのドライブプレイに対して、今までではフィニッシュをリードに頼るような部分もあったが、トレイルがファーストプライマリとして責任をもって判定するという意識が持てたことは収穫だった。また、ゲーム前の確認通り、②③の項目については3人でよく確認してゲームを進めることができた。ゲームの流れの中で、リバウンド争いがラフなコンタクトになったケースと、トレイルから始まったプレイをリードからコールしていただいたケースがあり、判定しきれなくて悔しかった面もあった。

### ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 豆塚氏(熊本県)A級

- ・トレイルで自分のプライマリだが判定できていないケースがある。プレイの始まりを見る位置が場合によっては狭い(その1ON1しか見えない)ときがあるので、始まりの位置を工夫したほうがよいとのこと。
- ・リードの際にクローズダウンポジションからミラーザボールで再度開かないといけない場面で開き切れていないところがあるとのこと。

実技	割り当て	女子準決勝【精華女子 vs 日商学園】	U2	相手	砂川(沖縄県)A級/豆塚(熊本県)A級
----	------	---------------------	----	----	---------------------

### ○ゲーム前(プレカンファレンス)

- ・3POのプライマリエリアの中でも、特にエリアの重なるところ、アングルが取れているところ、チェックイン・チェックアウトについて確認。
- ・3P/2Pの確認をリードからもセンターからもピークをするということ。
- ・パンフレットを見て、両チームの身長などからある程度戦術を予測し、起こり得るケースに対する準備。

### ○ゲームの実際

「誰がファーストプライマリなのか」というところの迷いが多く、判定しきれない部分が多いゲームとなった。プライマリエリア・アングルをもっと意識して取り組みたい。その中で、お互いに重なりは必ずあるので、同時にコールした際にどう動くか、などを県内でも確認するようにしたいと感じた。大きな現象として、ダブルファウルになったケースがあった。ボールを追従しているトレイルの少し先の方で、オフボールマン同士が絡み合い、ラフな接触になったケースで、センターで見ていた自分が視野を当て切れていなくて、結果トレイルが判定を下した。判定した砂川さんは、「ボールのところこそまでアクティブではなかったから、その先を見ていたらそちらがどんどん激しくなってきた…」と説明をされていて、情報収集の仕方や危機管理の面でとても勉強になった。

### ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 山中氏(鹿児島県)B級

- ・トリプルコールがあった場面で、誰がファーストプライマリだったか。
- ・ゲーム序盤でほとんど整理されていた。その中で、自分も見えているケースについては判定をもっとしていてもよかったのではないかと。
- ・プレゼンテーションの様子から緊張していたように映ったとのこと。

## 全体を通しての感想

初日の1回戦から3POということで、今後さらに県内でも3POが求められていくということを改めて感じさせられました。また、ローテーションはスムーズにできてるようになってはきているが、より細かいアングルやポジションアジャストの部分を追求していかないと、3POの良さを生かしたよい判定にはつながらないと思いました。より細かいアングルやポジションを追求するためには、映像を用いた振り返りが必須であると思いました。

今回、他県の審判員とも協力しながら、お互いに映像を撮りあい、各々の反省に生かしました。(すべてのゲーム・すべての時間ではないが1Pだけでもといった具合に)撮影しようと思えば携帯でも撮影でき、映像を撮る手段はいくらでもあります。県内の大会でも、もっともっとお互いのゲームを撮りあい、振り返りに生かしていけるように働きかけたいと思います。その際、判定が正しいかどうかの議論にその映像を用いるのではなく、誰のエリア・アングルだったのか、ではお互いのメカをどう修正すれば、明日のより良い判定につなげられるのか、という振り返りにしていけたらいいと思います。

最後に、このような機会を与えて下さった県審判委員会や、運営等さまざまな場面でお世話をして下さった沖縄県審判部の方々に感謝申し上げます。第48回全九州高等学校春季バスケットボール選手権大会の報告といたします。